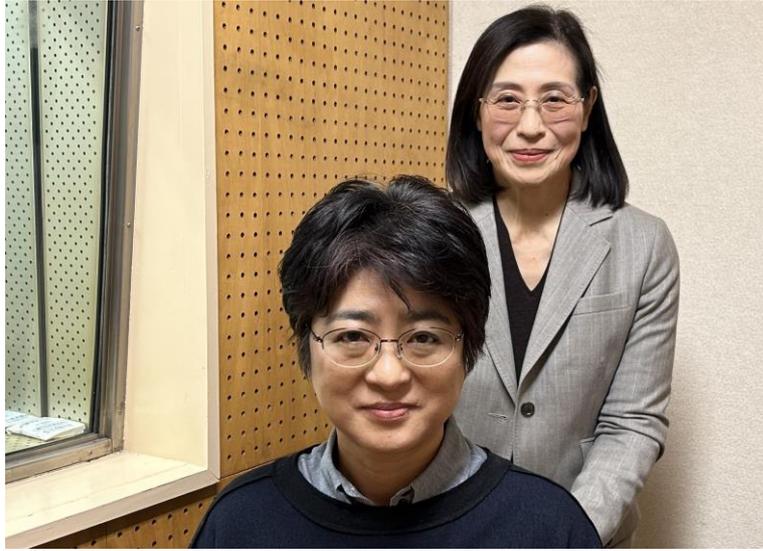


MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2025.1.4  
第 1131 回放送分『大人・子どもの神経発達症』1 回目  
ゲスト：永田雅子ドクター



二見いすず

あけましておめでとうございます。

2025 年もどうぞよろしくお願いいたします。

今月のドクタートークは、「大人と子どもの発達障害」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島県医師会 永田雅子（ながた まさこ）ドクターです。

永田さん、どうぞよろしくお願いいたします。

永田雅子Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

早速ですが、発達障害とはどういうものかについて、教えていただけますか。

永田雅子Dr.

はい。確かにこれまでは発達障害という言い方がされてきましたが、

まずはこの「障害」という認識を改めましょう。

ということから、今日はお伝えしたいと思います。

二見いすず

つまり今は、発達障害という言い方はしないということなののでしょうか？

永田雅子Dr.

実は今の診断基準では神経発達症という言い方になっています。

発達症の種類はいくつかあり、

自閉スペクトラム症、ADHD 注意欠如多動症、学習障害、チック症などです。

これらの特徴のことを特性といいます。

特性と障がいはずしも一致しない。これを今日はみなさんにお伝えしたいです。

## 二見いすず

発達障害ではなく、神経発達症となり、それは必ずしも障がいとイコールではないということですね。

## 永田雅子Dr.

はい。障がいになるかどうかは、生活の支障具合によります。

## 二見いすず

具体的にはどのようなことなのでしょう？

## 永田雅子Dr.

例えば鉄道好きな人が鉄道会社に入社すると、仕事を頑張りやすく、こだわりが強みになります。つまり環境に適応できると、自閉スペクトラム症の方であっても障がいとはならないでしょう。一方、合わない分野の仕事に就いたなら、些細なことも苦痛に感じるかもしれません。

## 二見いすず

そういうことなんですね。

## 永田雅子Dr.

これまで、特に高齢者の方は、障がいと聞いただけで重く受けとめていたかもしれませんが、けしてそうではありません。

## 二見いすず

認識を変えてもらうことも大切ですね。

## 永田雅子Dr.

はい。特性というものは親のせいというものではなく、元々ある発達の凸凹なのです。心の器は形、大きさ、性質も様々で、そこに入ってくる刺激やストレスの量や性質によって反応が違います。ある一定の特徴が揃っていると診断がつきますが、その診断は、治療やサービスを利用するための手段とってください。診断がついたから烙印を押されたわけではないということを今日はしっかり覚えてくださると幸いです。

## 二見いすず

よく分かりました。  
今月は、「大人と子どもの神経発達症」をテーマにお送りいたします。  
お話は、鹿児島県医師会 永田雅子ドクターでした。  
永田さん、ありがとうございました。

## 永田雅子Dr.

ありがとうございました。